

ほりえ 眞報 41号

9月補正5億2千万余、25年度決算も認定 たたらば壱番地に駐車場を増設 千5百万円

9月議会では5件の条例
制・改定と総合計画の基本構
想について議決、また「**うん
なん健康都市宣言**」が制定さ
れました。「ま・め・な・か・
ね」を頭文字に一、まなびま
す生涯続ける健康づくり
一、めざします旬を味わう地
産地消 一、なくします一人
でよくよ悩むこと等など
5項目が謳われています。
26年度補正予算と25年度決
算3百億円余の歳入・歳出決
算を認定して閉会しました。

主な補正は高齢者等タクシ
ー利用料助成に3百万円余、
東京都営バス側面に雲南の



菅谷高殿。平成の匠の技で見事に復元されました。30日オープン予定。

清風荘の改築計画を提示

昭和37年に整備された国民
宿舎**清風荘**も老朽化が著しくお
客様のニーズに対応できず年々
利用率も低下しています。
この度整備計画の検討状況が示
されました。それによると

宿泊定員116名（現状規模）
部屋の形態11余裕をもった2
4人部屋24室として和室を若
干多めとし、各室にトイレ、洗
面、シャワーを整備する。宴会
は最大80人規模で現状と同等
とする。**平成30年の開業を目標**
す。と言うものです。予算規模
や施設の配置図などについては
まだ示されていません。来年3
月には尾道・松江間も開通しま
す。早期の改築を願います

原発委 福島県浪江町視察

東北大震災から早くも3年半
が経過 島根原発2号機の新基準
適合審査が行われる中、福島の実
態を見るべきとの意見を受けて
7月30日から2泊3日で福島県
浪江町と桑折町を視察した。

浪江町は福島第一原発から5
Km、35 Km圏内に位置する町。
東電と災害時通報連絡協定が結
ばれていたが当日浪江町には連
絡無し。マスクで原発の状況を
把握しつつ自主避難 立地自治体
には避難用のバスが用意された
津波の翌日、避難命令が出たため
沿岸部津波被害者の救援に行け
なかつたことが痛恨と議長説明

翌日二本松支所から浪江町本
庁舎に向かう 浪江町に入ると検
問所が有り免許証を全員提示し



二本松支所から浪江町に入る
と検問所。免許証を提示。帰
還困難区域に入る。線量計の
警報音が鳴りつばなし。原野
に立派な家が放置されている

て帰還困難区域に進入する。居住
制限区域では除染作業が行われ
仮置き場に堆く土嚢袋が積まれ
ていた。「**災害復興はまだ。まだ終
わっていない。これからだ。...**」
桑折町 原発から60 Km以上離れ
ているが風向き・雨の影響で事故
後非常に高い放射線を検出。全町
いち早く除染を開始。住民合意で
汚染土の仮置き場を地区内で決
定している。「**福島全体が安全神話
にドブプリつかり原発に無知だつ
た**」。被災後、桑折町に駆けつけ
支援をされている雲南市の佐藤
さんと合流 既に50回以上訪問と
か。健康留意ご活躍下さい。



桑折町は献上桃等果樹栽培で
有名な町。浪江町から避難浪江
支所がある。風評被害対策で切
らずに計れる非破碎式食品放
射能測定器を導入。桃美味也。

編集後記 各地で台風・豪雨災害、御
岳山噴火と大きな被害が続きました。
被害に遭われた皆様にお見舞い申し上
げます。今年も残りわずか平穏な年末
を期待。お元気で過ごして下さい。
眞